

## 第4章 名詞・代名詞の格

### ■格

#### (1) 名詞の格

名詞は、文中にある他の語句との関係で、「～は」、「～が」、「～の」、「～を」、「～に」等の関係を示すための形を持っています。これを格と言います。格の個数は言語によって異なります。昔の英語では5つの格がありましたが、現代の英語では「主格」、「所有格」、「目的格」の3つの格しかありません。しかも「主格」と「目的格」は形態上の区別がありません。

	主 格	所 有 格	目 的 格
単 数	dog	dog's	dog
複 数	dogs	dogs'	dogs

#### (2) 人称代名詞の格

主語を表す I, you, he, she, it などの人称代名詞にも格の変化があります。名詞が「主格」→「所有格」→「目的格」と格変化するのと同じように、人称代名詞も「主格」→「所有格」→「目的格」と格変化します。

		主格 (～は、～が)	所有格 (～の)	目的格 (～を、～に)
1 人称	単 数	I	my	me
	複 数	we	our	us
2 人称	単 数	you	your	you
	複 数			
3 人称	単 数	he	his	him
		she	her	her
		it	its	it
	複 数	they	their	them

### Dr. Higgins's room

所有格の its と it is の短縮形の it' s を混同しないように注意しなければなりません。

### (3) 名詞の所有格

#### ① 生物（特に人間）の所有格

例えば、「健の」なら **Ken's** 「父の」なら **father's** というように、名詞の語尾に「's」をつける。この「'」の符号をアポストロフィーという。

特 徴	例	日本語訳
—	my niece's son	私の姪の息子
—	my uncle's house	私の叔父の家
—	men's shoes	紳士靴
-s で終わる複数名詞にはアポストロフィーだけをつけます。	ladies' shoes	婦人靴
	a girls' school	女子校
-s で終わる人名は's をつけるのが原則ですが、古典的人物はアポストロフィーだけをつける傾向があります。	Dickens's style	ディケンズの文体
	Moses' law	モーゼの十戒

#### ② 無生物の所有格

古くは、無生物の所有格も①と同じように作られていましたが、11世紀頃から「of+名詞」で表すのが主流になりました。それでも、時間、単位、建造物、地名などの少数のグループに「's」での所有格を表わす用法が残りました。ところが、この100年の間に再び、他の無生物の所有格にも「's」を用いる傾向がでてきているようです。

特 徴	例	日本語訳
—	the leg of a table	テーブルの脚
—	the foot of a mountain	山の麓
—	today's paper	今日の新聞
—	an hour's walk	1時間の歩き
a は walk に付いている	a two hours' walk	2時間の歩き
a は pound に付いている。weight は抽象名詞(数えることができない名詞)なので a は付かない。	a pound's weight	1ポンドの重さ
—	two pounds' weight	2ポンドの重さ
—	Heaven's will	天の意
—	nature's laws	自然の法則
—	a week's vacation	1週間の休暇
—	a stone's throw	石を投げて届く距離

ここまでの整理をしましょう。

**【確認問題】** ※解答は最終ページにあります。

次の日本語を英語で書き表しましょう。

- |          |            |
|----------|------------|
| ① トムの父   | ② 私の父の車    |
| ③ 今日の新聞  | ④ 1時間の仕事   |
| ⑤ その少女の本 | ⑥ あなたの両親の家 |

### **Dr. Higgins's room**

アポストロフィーは「省略」を意味する符号でした。それではなぜ、「～の」という所有格を作る時に、「's」を用いるのでしょうか。その昔、「～の」という所有格を表す活用語尾がありました。-es と -an と -e の3種類です。例えば、石 (stan (現代では stone と綴る)) は stanes と書いて「石の」となり、名前 (nama (現代では name と綴る)) は naman と書いて「名前の」となりました。しかし、このうち、-es を用いるのが一番多かったので、これを用いて所有格を作ることが主流になり、やがて e が消え、消えた e を表わすためにアポストロフィーを用いるようになりました。こういう理由で、現代では所有格を作るのに「's」を用います。

### **Dr. Higgins's room**

「今日の新聞」や「1時間の仕事」などの所有格などでは、アポストロフィーを用いて所有格を作る方が普通です。

(4) 独立所有格

名詞の所有格や人称代名詞の所有格が独立して用いられる格を「独立所有格」といいます。代名詞の場合は「所有代名詞」という言い方もする。訳し方は「～のもの」と訳しません。用法として、次の3つの用法があります。

- i) 一度前に出た名詞の反復を避けるために用いられる。
- ii) 何を表しているのか周知されている場合にも用いられる。
- iii) 二重所有格。

用 法	例
i) 一度前に出た名詞の反復を避けるための用法	This dictionary is <b>Tom's</b> . (Tom's の後に dictionary が省略されている。) This dictionary is <b>his</b> . (his の後に dictionary が省略されている。)
ii) 何を表しているのか周知されている場合の用法	That is <b>Jimmy's</b> . (Jimmy's の後の単語が容易に推測できる。)
iii) 二重所有格の用法	He is a friend of <b>John's</b> . (「John の友達の一部」という意味。) He is a friend of <b>mine</b> . (「私の友達の一部」という意味。)

		主格 (～は、～が)	所有格 (～の)	目的格 (～を、～に)	所有代名詞 (～のもの)
1 人称	単 数	I	my	me	mine
	複 数	we	our	us	ours
2 人称	単 数	you	your	you	yours
	複 数				
3 人称	単 数	he	his	him	his
		she	her	hers	her
		it	its	it	(its)
	複 数	they	their	them	theirs

**Dr. Higgins's room**

無生物のものを受ける it が、「自分のもの」とあるという状況を表すことが極めてまれであるために、it の独立所有格には ( ) がつくことが多い。

## 確認問題の解答

### 【確認問題】

- ① Tom's father
- ② my father's car
- ③ today's paper
- ④ an hour's work
- ⑤ the girl's book
- ⑥ your parents' house

### <<< 参考図書 >>>

- 『英語教師の文法研究』安藤貞雄著 (1984年再版発行 大修館書店)
- 『表現のための 実践ロイヤル英文法』綿貫陽 マーク・ピーターセン共著 (2006年発行 旺文社)
- 『英文法総覧』安井稔著 (1996年改訂版発行 開拓社)
- 『英文法解説』江川泰一郎 (1991年改訂第3版発行 金子書房)
- 『第4版 実例英文法』AJ トムソン/AV マーティネット著 江川泰一郎訳注 (1988年発行 オックスフォード大学出版局)
- 『第3版オックスフォード実例現代英語用法辞典』Michael Swan 著 吉田正治訳 (2007年発行 研究社/オックスフォード大学出版局)
- 『英語の素朴な疑問に答える 36章』若林俊輔著 (1990年発行 The Japan Times)
- 『英語教育 Vol.62 No.11』(January, 2014) (2013年12月発行 大修館書店)